

〈スズランノキ〉

庭にある“スズランノキ”に花が咲いた。だいぶ前に園芸カタログで買った苗木なのだが、名前も忘れていた。ただ、秋になると紅葉がものすごくきれいでその時期だけ存在感を増す木だった。花の図鑑で紅葉がきれいな木を調べていくと、“スズランノキ”と分かり、「そんな苗木を買ったな～」と過去の記憶が甦った。そして今年初めて花が咲き、その名前の意味が分かった。そう、アセビに似たスズランのような白い花をつけるのでこの名前になったのだと。今日、咲いた花をまじまじと見たが、なるほどなるほどスズランによく似ている。もう少し上向きに咲いたらそっくりだ。ほのかな香りも涼しげで悪くない。クマンバチやアシナガバチも来て盛んに蜜を吸っていた。



現在樹高は3 mほど、地上30 cmの幹の直径は4 cm程度か。樹高の割に幹が細いので、少し強い風が吹くと厚みのある葉がユラユラ揺れて心もとない。生長が遅かったし、名前も忘れていた木なので少し邪険に扱っていたが、このスズランに似た白い花と目の覚めるような真っ赤な紅葉を見ると俄然愛着が増してくる。そんな己の身勝手さに呆れつつ、「切らないで良かった～！！」とホッと胸をなでおろす。花がきれい、木肌が美しい、紅葉が見事だ、、、そんな人間の価値基準で多くの庭木や盆栽が植栽されたり時には高値で取り引きされたり。木は嬉しいだろうか、それとも迷惑だろうか？